

イネカメムシが急増中！ 広域防除を実施しましょう



今年はイネカメムシが多発し、地域によっては前年比10数倍の頭数が確認されています。

不稔による収量減少や斑点米による品質低下などの被害も発生しています。

イネカメムシの被害を防ぐためには、農家個人で実施するよりも、広域的に一斉に防除を実施する方が効果的です。

ぜひ、地域で広域防除に取り組みましょう。イネカメムシの成虫



イネカメムシによる
斑点米の被害

広域防除の手順

① 地域の団体で話合い

地域の団体で、広域防除の実施に向けた話合いを行う。
散布するエリアや、散布時期を確認する。

② 委託業者との調整

委託業者に防除を依頼し、散布エリアや散布時期等の実施計画について調整する。

③ 薬剤の確保

面積から薬剤散布量を計算し、薬剤を確保する。
欠品になる可能性があるため、早めに注文しておく。

④ 周辺住民等への事前周知

防除を行うエリアの周辺の住宅、学校、病院等に対して事前に周知を行う。

⑤ 広域防除の実施

実施計画に基づいた防除を実施する。計画から変更がある場合は早めに委託業者に連絡する。

裏面に参考事例



事例①

実施地域：2市

防除面積：延べ656ha

防除時期：1回目 7/20～8/4、2回目 (一部のみ)8/19

実施方法：S社に委託し、無人ヘリで防除



実施者のコメント「早生、中生品種で、防除を実施した場合は、斑点米カメムシ類による被害はほとんどなく、収量も良い」

事例②

実施地域：3市町

防除面積：延べ453.5ha

防除時期：1回目 (早生)7/8 (中生)7/25
(中晩生)8/9

2回目 (中晩生)8/19

実施方法：S社、O社に委託し、無人ヘリ
またはドローンで防除



実施者のコメント「不稔の防除には出穂期、時期を逃さず防除した方が効果的。特に中晩生以降は、2回防除をした方が良い。」

事例③

実施地域：3市

防除面積：延べ845ha

防除時期：1回目 7月中～8月上旬

実施方法：Y社、S社、H社に委託し、無人ヘリ
またはドローンで防除



実施者のコメント「1回より2回、防除回数が
多いほど防除効果は高いと思う」

【問合せ先】

広域防除の実施に関して相談がある場合は、
お近くの農林振興センターまたは農産物安全課、病虫害防除所に御連絡ください。

農産物安全課	048-830-4053	病虫害防除所	048-539-0661
さいたま農林振興センター	048-822-2492	川越農林振興センター	049-242-1808
東松山農林振興センター	0493-23-8532	秩父農林振興センター	0494-24-7211
本庄農林振興センター	0495-22-6156	大里農林振興センター	048-523-2812
加須農林振興センター	0480-61-3404	春日部農林振興センター	048-737-2134